

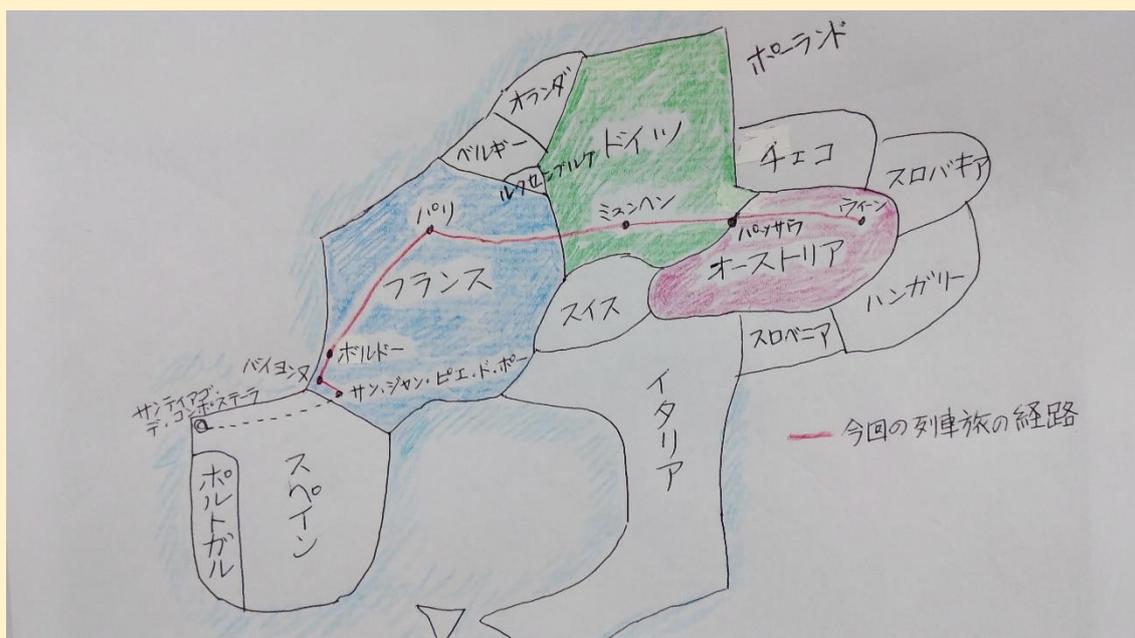
## オーストリア・ドイツ・フランスの列車旅

(2014年5月2日～5月7日)

そのうち行くサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼の出発地の下見を兼ねてウィーンから南仏まで列車の旅をした。

私がスペイン北西部の「サンティアゴ・デ・コンポステーラ」のことを何かの本で知ったのは十年近く前のことだったと思う。そしてああ、行きたいなあ、と思ったがそのころの私にとってはとても無理な話であった。私は主婦であり、家にはまだ十代前半の子供たちと七十代半ばの義父母たちがいた。夫は単身赴任中で週末だけ家に帰って来る生活をしていた。しかし数年の時がたち、最近では主婦の立場の私が長期の海外旅行をするということがそんなにとんでもないことでもないのではないかという気がするようになってきていた。夫の単身赴任は終了していたし、子供たちも十代後半と二十歳過ぎになっていた。

それで私は二年前くらいからぼちぼち夫から長期旅行の許可を引き出そうという試みを開始していた。そして本命のその旅を敢行する前段階として短期の下見のなヨーロッパの旅を計画したのである。そしてその旅を実行する日がやってきた。



私の旅にはいつも付き物の家庭内のゴタゴタがある。このゴタゴタはこの時が一番ひどかった気がする。旅とは直接関係ない話であるが私にとっては旅と切っても切れない関係

にある話なのでしっかり記載しておくことにする。

2014年4月30日(水)のこと。これは私の出発予定日の二日前である。朝7:30、娘が起床した。彼女は二十歳だが昨年の春、通っていた専門学校を成績不振のため一学年終了のところ退学した。そしてそのあととあるハンバーガーショップでアルバイトをしていた。いわゆるフリーターである。彼女は小さいころからよく風邪をひく子であった。身体が弱い、とか言うとおとなし気な子のように感じられるが正反対!、性格的にも問題だらけで親には勿論、幼稚園から高校まで、先生方や心優しい友人の方々に多大なるご迷惑をかけたやっかいな子であった。



起床した娘はまた熱を出していた。ヤレヤレ、また世話をしなければならぬ。朝夕、おじやを作る。バイトは休みにする。こいつはとことん私に甘えてぐだぐだと過ごす三日くらいでほしい風邪は治る。

私はもう七年半もアルバイトでポスティングを続けているが、長い旅行の前には準備のためにそれを少し休むことがある。この時もそうしていたのだが、あーあ・・・何だかなあ～、ポスティングを休みにしても誰かの世話をする生活で忙しいのは変わらないなあ。熱があるから仕方がないんだけど、こいつは二十歳になっても母親に世話をされながらまったり生活しているってのはなあ・・・歯がゆい!! 自分の場合も私の弟妹達も早く家を出たくて高校を卒業すると親の金で進学はさせてもらったが、さっさと家を出て安いアパートに住んでアルバイトをして生活の足しにしていた。自分が子供のころ娘のような生活を味わうことができなかつたからそう思うのだろうか?

5月1日(木) 娘の熱が上がる。昨日ずっと37.5℃。今朝38.2℃。病院へ行くか?

と聞いても行かない、と言う。雑炊はよく食べる。

義母の訪問看護でNさんが来る。

午後四時ごろ今回の旅行の手配をしてくれている旅行会社から、エールフランスがストをやる可能性がある、と連絡がある。ストオ?!じょーだんじゃないぜ!!

その後の連絡待ちをする。もし行けなかった場合の埋め合わせとして長崎のハウステンボスや五島列島への旅を考えてみるが宿がどこも見つからなそうで頓挫。考えてみればそういう所って九州あたりの人なら気軽に行けるところだよなあ。すぐにふさがってしまうわけだ。他にどこか国内で数日間の良い旅が出来そうなところを探してみるが見つからず。何も準備していないのに山にというわけにはいかないし、徒歩の旅、自転車の旅、・・・どれもじっくりこなさそうである。お天気が良いすぎるゴールデンウィーク中にそんなマニアックな旅なんて似合わない。

5月2日(金)

出発予定日である。それでもただ予定通りに仕事を進めようと頑張る。

ところが朝八時、起きてきた娘が今日病院に行くという。慌てて仕度。(数年後には普通の風邪くらいの時には一人で病院に行くようになってくれた娘であるが、このころはまだ当たり前のように私が同伴していた。)義母のレンタルしている車椅子に乗せて行こうかなどと考えたがやはり気が咎めタクシーで往復する。そしてその日の朝十時に来ることになっている義母の訪問入浴は私の立ち合いなしで、ということでお願いしておく。九十歳近い要介護老人よりも優先される二十歳の娘、というわけである。夫はこの日は休みで家にいたがこの程度の状況では娘の付き添いを代行してくれるわけではない。娘が父親ではなくて母親が同行してくれることを要求するからである。私ははなはだ不本意なのだが忙しい時に揉めるのが嫌なので拒否せずにやっつけ仕事でやってしまうのである。

受診はすぐ済みそうに思われたが診察までに一時間以上待たされて十時過ぎになる。薬が出たのが十一時間際。帰宅できたのは11:15. とんだ時間ロスだ。しかも娘ははなはだ態度が悪い。イライラ、うんざりする。こんな奴の相手をしているよりはパリあたりで行き暮れてさまよっている方がマシである。しかし娘は受診しさえすればそれだけで回復するようなことがよくある。この日も病院からの帰路は元気そのものであった。やれ、よかった!

ここまであんなに念入りに準備をしたのにフイになってたまるか!!絶対に出かけるぞ。どうしても飛行機が飛ばなかったら山口から日本海側に回って新潟あたりまでトコトコ辿ってみようなどと考える。

十二時半ごろ旅行会社からメール。大丈夫そうだと。息せき切って、でも念入りに出発準備。でもナスとこんにゃくの調理が間に合わなかった。というよりもういいやと思って切り上げた。

昼過ぎ、義姉が到着。義姉は夫の姉であるが電車で片道三時間ほどのところに住んでいる。独身なのでたびたび我が家を訪れて親孝行や甥、姪の相手をしてくれていく。私の出発の仕度は二時半くらいには済む。義姉が来たので安心した夫は、何かあって遅れるといけないから早く出発しろしろうるさい。そういうわけでフライトは22:15だというのに午後三時半にもう家を出る。京浜東北線で順調に浜松町まで行き、モノレールの快速に乗れたので16:45に羽田着。チェックイン開始まで三時間もある！出発まではあと五時間半か……。何でもっと遅く来てはいけないのか？長時間で退屈極まりないが歩き回る気もしないので座っている。おにぎりを三つ買った。一時間おきに一つずつ食べることにした。

羽田空港の出発ロビー付近のショップがとても増えている。後半ひととおり見て回る。勿論買い物などはしない。

そしてようやくエールフランス、パリ、シャルルドゴール行き、22:15出発である。

5月3日（土）

現地時間の4:00 AMにパリ、シャルルドゴール空港着。荷物は全部機内持ち込みにしたので楽である。初めから終わりまで全部自分で持ち運ばなくてはならないのだからスーツケースのような大きくて重いものを持ってこられるわけがない。日常使用しているディバク一つと手提げ袋一つだけが荷物の全てである。

ウィーン行きの便に乗り換えるために人に尋ねながら空港内を移動する。いささかわかりにくいそれでも三時間あるので焦らなくて済む。

パリからウィーンまでは二時間のフライト。こういうのもいいものだ。コーヒー、紅茶とスナック菓子のサービスがある。

9:10がウィーン到着の予定時刻だったが少し早く着いた。パスポートチェックがあるのかと思ったらそういうものには一切行き会わずに出口に着いてしまい面食らう。パリ到着の際に一度チェックを受けたのでそれでOKなのだあとでわかったが、ウィーンでのスタンプも欲しかったのに残念なことであった。出口からすぐのところウィーンの鉄道駅行きのバス乗り場があった。9:09発に乗ってしまった。料金は8€だった。



ウィーンの駅前はこの感じですよ

ウィーン西駅から鉄道でパッサウへ。ウィーン駅前には特にロマンティックな風景ではない。マクドナルドやケンタッキーなどの店もある。駅構内はそこそこ広くお店もいろいろあるが大宮駅ほど広くはない。勿論東京駅などには遠く及ばない。あえて例えてみれば赤羽駅くらいの規模であろうか？

駅構内のアジアン・デリのショップで昼食用に一品購入。揚げ豆腐の入ったカレー味の野菜料理で小さい方のカップに入れてもらったが、それでも日本の「小さいカップ」の四倍くらいの大きさであった。パッサウに着くまでの車内で食べきれず、夜、ホテルの部屋で食べ終えた。

ヨーロッパの駅にはいわゆる改札というものがない。駅構内とホームの間の出入り口があるだけでそこは殆ど出入り自由である。そして私が面白いと思ったのはホームの番線の並び方だ。日本ではどこでも改札口からホームが見えるような規模の駅なら改札口から見てホームは（つまり列車は）水平に並んでいる。しかしこの駅ではホームが垂直に並んでいた。日本では東京駅や新宿駅のように改札口と列車の発着ホームの階が違って改札口からホームが見えないような大きな駅では改札口に対してホームの並びが垂直だったりするが、ヨーロッパではかなり大きな駅でも改札口・・・ではなかった、駅のコンコース、というのかホールというのか、待合室のあるフロアと列車の発着ホームが同じ階にあり、ホームが五本以上あるような駅ではホームは垂直に並んでいるようであった。

私は出発前に日本で旅行会社を通してすでにウィーン発パッサウ行きの乗車券を買ってあった。でもこれは乗車時刻が指定されていなかった。つまり何時に発車するどの列車に乗ってもいいということだ。こんな前売り券は日本では見たことがない。何て便利なんだ！私はウィーン西駅 10:52 発に乗り、13:18 にパッサウに着いた。

道中、車窓からはわりと似たような地味な平野の風景がずっと続いた。畑や丘や林など。そして時々百メートル四方くらいの広さの菜の花畑が黄色い折り紙を広げたように現れては流れ去っていくのであった。

途中通り過ぎるリンツなどの各駅の周囲の様子も地味だ。しかしパッサウの駅舎の建物は際立って美しかった。



パッサウの駅に到着



パッサウの駅舎

パッサウという町について私は何故なのかももうはっきり覚えていないのだが学生時代からずっと憧れがあり、行ってみたいものだとずっと思っていた。カロッサという作家に所縁のある町だと聞いたような気がするが、カロッサについても殆ど知らない、というか昔大分調べたような気もするが覚えていない。

パッサウの駅舎は派手ではないが明るいレンガ色で柱や窓枠が白、とても可愛らしい雰囲気なのだ。駅の外に出るとマクドナルドやフォーエバー 21 などの店が並んでいるのには興ざめだが、街全体が落ち着いた愛らしさに溢れている。街の建物や街路の石畳は淡いピンクやオレンジやグレーで統一されている。しかし人が多いのにはびっくりした。まるで夏休みの軽井沢だ。



パッサウの駅にほど近い通りの風景

駅前の観光案内所に行って街の地図を貰う。ドイツ語、英語の他に日本語の地図もあって驚いた。他の言語についてはどうだったか忘れた。

しかし地図を見ながら歩いたがなかなか行ってみたいと思っていたところの場所がわからない。でも美しい街を歩いているだけで何だか満足してしまい、迷子にならなければまあいいや、と思いながら放浪する。名所旧跡の類は明日の午前中に訪ねてもいいことだし・・・。





川沿いの風景



しかしホテルの場所は確認しなくてはならない。駅に一度戻って真剣にホテルを目指す。案内所の人に頑張ってドイツ語で尋ねようとしたが言葉に詰まってしまい、「英語は話せますか？」と聞かれる始末。でも四時ごろちゃんとホテルに到着できた。“Achat Confort Passau”というホテルである。「歩いて行けるところじゃない」と案内所で言われたが徒歩五十分で着いた。ずっと緩い上り坂ではあったが。

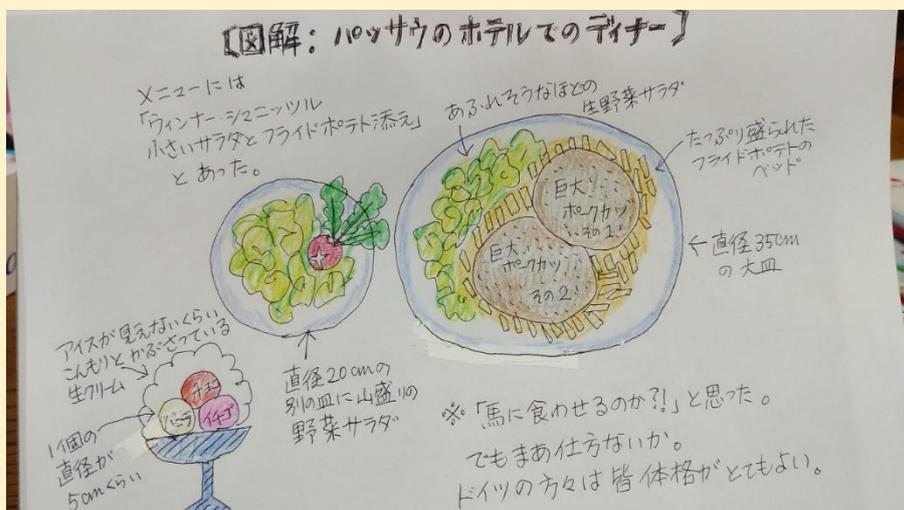


アシャット・コンフォート・パッサウ

ホテルの部屋から家に電話をする。息子が出る。それから何と女子大時代の同級生からクラス会のお誘いのメールが来ている。返信する。

夕食をホテル内のレストランで食べる。高級ホテル内の高級レストランという感じのものではなく近くには特にレストランはないので手近で食べるのならここでいいでしょうと

という感じのレストランである。「ウィンナー・シュニッツェル」とメニューにあったので頼んでみたらビーフではなくてとんでもなく巨大なポークカツが二枚と溢れそうなほどの生野菜が載った大皿、それとは別にやはり山盛りのサラダの中皿が添えられて出てきて往生した。「馬に食わせるのか?」と思ったくらいである。そしてデザートに頼んでしまったアイスクリームも直径五センチくらいの球形のものが三個(バニラ、チョコ、ストロベリー)盛り合されていた。食べきれないでつついているうちに溶けてしまった。



5月4日(日)

朝、ダイニングルームで朝食。このホテルは朝食付きであった。駅まで戻るのは楽だった。緩い下り坂をぶらぶらと下った。小鳥の歌声がとても美しく、それを聞くためだけにここを訪れてもいいと思うくらいだった。風景もとても美しく、最高の気分だった。

前日に道がよくわからず予定していた名所を見学できていなかったのが今日ちゃんと見て歩こうと思っていたのに、私はなんて馬鹿なのだろう、うっかり忘れて早い電車に乗ってパッサウを離れてしまった。そろそろお土産を探さなきゃ、ということに注意が行き過ぎていたせいもあるだろうが、あまりにも美しい小鳥の声を聞いて脳がすっかり満足してしまい、パッサウでの予定が全て終了してしまったような錯覚を起こしてしまったのだろうと思う。



### 朝の道をホテルから駅の方面に戻る・・・

パッサウの駅の中のコンビニで昼食用にパンとカットフルーツとサクランボのジュースを購入。それからお土産用に可愛い絵葉書も買った。そしてこの後にも私はおバカなミスを連発する。私は時刻表の読み違えをしてパッサウからミュンヘンまで列車で六時間かかると思い込んでいた。しかし何と二時間二十分で着いてしまった。降り損ねずにすんで本当に良かった。しかしパッサウでの観光を端折ったせいもあって私はミュンヘンの駅の周辺でなんと十一時間も過ごさなくてはならなくなってしまったのである。しかもデパートでじっくりお土産探しをしようと思っていたのにうっかりのせいでそれもできなくなった。なぜならその日は日曜日だった。すでに知っていたはずだったが忘れていた。通常ヨーロッパでは日曜日はデパートを始めとして全ての商店は休業である。飲食店関係と駅構内の店は開いていたが他の店は全て休みで、でも街全体が歩行者天国状態であった。



その上私が目当てにしていたケーキの美味しいカフェ、「リシャルト」は、どれだけ人気なのか！？と呆れるほどの激混み状態で、お客さんたちは皆立ったままケーキにがぶりついていて。それを見て私が大層幻滅したのは言うまでもない。折角のケーキをあんな風に食べたくない。この時からである、美味しいものは日本で食べよう！と思うようになったのは。それに街の中にはやたらにトイレがない。(デパートが開いていれば問題なかっただろう

と思うが) 公園では無料の公衆トイレがあったりしたが公園にばかりいるわけにもいかない。それでトイレに行きたくなると一度駅に戻り、ここは有料だったので0・5€を払って用を足してくる。でもこれはけっこういい時間つぶしになった。



ミュンヘン駅近くの路面電車



とある公園の噴水



公園の中にあった小さい美術館



古代美術博物館

そういうわけでショッピングもできないのにどうやって十一時間も時間を過ごしたのかというと、

- ◎トイレに行きたくなったら駅に戻る。
- ◎行動範囲は半径1 kmくらい。
- ◎教会を二つ見学した。
- ◎小さな「おもちゃ博物館」があったので入ってみた。
- ◎駅構内のベンチで休憩。
- ◎駅構内の店を見て回る。
- ◎夕方、近くのケンタッキー・フライド・チキンで食事。

そして夜になってからは駅の待合室の中で過ごしたりキヨスクやサンドイッチショップで買い物をしたりした。

ミュンヘンの町には路面電車が走っていた。でも乗り方がわからないので眺めるだけにした。それから閉まっている駅前商店街のシャッターの前で音楽を演奏している人たちがいた。

さてようやくパリに向かう寝台列車が出る時刻となる。(このころ日本では震度5くらい

の地震があったそうだ。日本時間5月5日5時18分。)

22:50発の寝台列車「シティナイトライン」では三人部屋を一人で使う。空いているせいもあるだろうが知らない人同士を同室にはしないらしい。



三人用の部屋を一人で使う



他のベッド二つは折り畳まれている

5月5日(月)

パリ東駅に9:24に到着する。途中ストラスブール駅を通ったのがわかった。ドイツとフランスの国境の町ということで私が学生時代からなんとなくロマンと憧れのようなものを抱き続けていた町である。それからどこかの駅でかなり長い時間停車していて、車掌さんや駅員さんが何とかかんとか言っているのが聞こえたので何かトラブルが起こったのかとかなり不安になった。しかもアナウンスなどは何もなかった。しかしやがて何事もなかったように発車して、列車は順調にパリ東駅に到着。遅延などはなくむしろ予定より早めなくらいだった。どうやらこちらの列車はたっぷり時間の余裕を持って運行しているようである。



私はここからバイヨンヌに向かうTGVに乗るためにパリの街を突っ切ってモンパルナス駅まで行かなくてはならないのだがメトロに乗るのは乗り方がよくわからないし何だか怖い。それで大した距離でもないので徒歩で行く。



セーヌ川とコンシェルジュリー



パリでノートルダムの次に大きいサンシュルピス教会



リュクサンブール公園沿いの道



もうすぐモンパルナス駅

まず東駅からstrasbourg大通りを南にまっすぐ行き、セーヌ川に出会ったら橋を渡って川中島であるシテ島を越えて、ノートルダム大聖堂やコンシェルジュリー（マリーアントワネットが幽閉されていた牢獄）の建物を見ながらサンジェルマン・デ・プレ地区に入る。そして右に曲がり、行ってみようと思っていた「コントワール・ド・ファミユ」というファンシーショップを探す。ほどなく見つかるが、何だか開いていないような……。店の人らしい女性が入り出していたので尋ねてみると「マダム、月曜日は十三時からの営業でございます。」とのこと。え～、それじゃだめだ。私はモンパルナス駅を12:28に発車するTGVに乗らなくてはならないのだ。諦めてモンパルナス駅を目指す。ところでこの店のすぐ近くにサン・シュルピス教会というのがあった。何だかとてもいいなと思った。

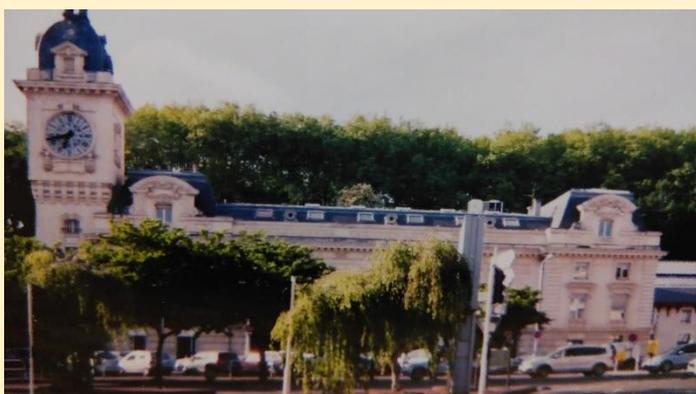
モンパルナス駅までの道は単純そうに思われたが意外にわかりにくかった。一度通りす

がりの女性に道を聞き、なんとか迷わずにたどり着くことができた。

そういえば話が前後するがセーヌ川を渡る付近で黒人の男性に英語で道を尋ねられた。私は頭がフランス語モードになっていたののでついフランス語で「ジュヌセパ (知りません)」と答えてしまった。すると相手は「英語はダメか・・・」と言いながら去って行った。あー、いや、ゴメンね。そんなつもりじゃなかったんだけど冷たくあしらってしまって。だって英語であれフランス語であれ、私にパリの道案内なんかできるわけがないじゃないか。

11:30ごろようやくモンパルナス駅に着いて乗車する列車を確認しようとするが表示が出ていない、というが見つからない。案内所に行って尋ねるがなかなか意味がわからなくて（言葉がわからなかったわけではない。）相手をイライラさせる。そして「英語にしたら？」とか言われてしまう。そう言われても……。確かにフランス語より英語の方がわかるはずなのだがしばらくフランスにいて（といってもまだパリに着いてから二時間余りだ。）頭がフランス語モードになっているとすぐには英語が出てこないのだ。でもようやくわかった。列車の発車時刻や番線は二十分前以降にならないと表示されないのだ。よく見ると電光掲示板に、ちゃんと私にもわかる言葉でそのことが書いてあった。不注意ですみませんでした～。

パリ、モンパルナス駅を12:28に出発し17:32に南仏のバイヨンヌの駅に到着する。ホテルに荷物を置いて買い物歩きをする。ホテルはアドゥール川にかかる橋と二ーヴ川にかかる橋を渡り、古風でお洒落な商店街の中にある。あまり目立たない外観だったが迷うほどのことはなかった。



バイヨンヌの駅



三軒おきくらいに飲食店がある



二つの川の合流点である



二つの橋の連結部分

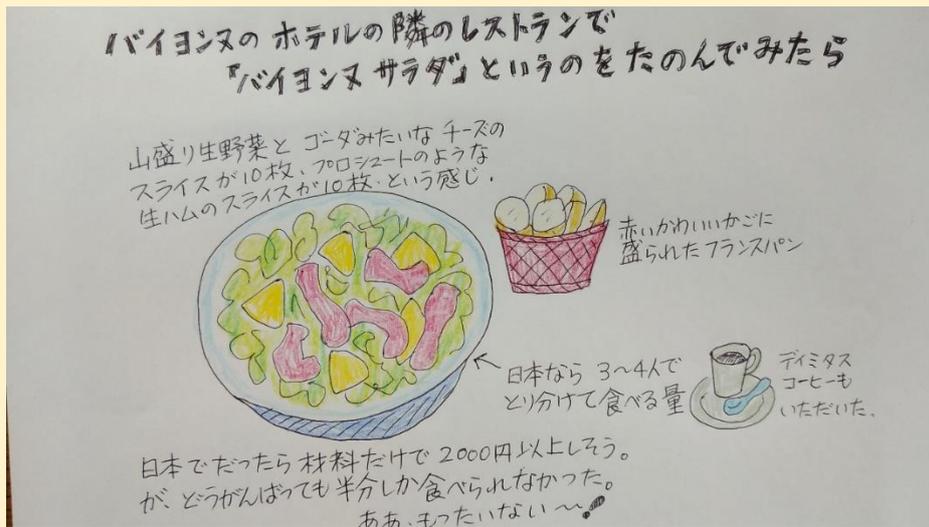


アドゥール川添いの家並み

綺麗な街だ。パリもそうだがバイヨンヌも三件おきくらいに飲食店がある。こういう街はシックでお洒落な服で歩きたいものだ。ブティックがあったので娘への土産に綺麗なローズピンクのポロシャツを購入。それから海産物の缶詰などを取り扱っている店でも買い物をする。そしてホテルに戻ってシャワーを浴び、着替えてホテルの隣の小さなレストランに食事に行く。フランスのこんなお洒落な街でならまさかドイツの例のようなドカ盛りの食事を出したりはするまいと思っていた。

そこでメニューを見てまずバイヨンヌサラダというのを頼んでみた。しかしこれがまたとんでもない代物だった。分量は日本でなら三、四人前くらいである。洗面器のような大きなボウルに山盛りの野菜とプロシュートのような高級そうな生ハムとゴーダチーズ（多分）のスライスが十枚くらいずつ載っている。もうびっくり！この材料だけ日本で買ったなら二千元以上するのではないだろうか？こんな高級な生ハムやチーズを食べられる機会はめったにないので是非全部食べたかったのだがとても無理だった。やむを得ず半分残したがとても勿体なかった。冗談半分本気半分で、「残りをテイクアウトしたい」と言ってみたが通じなくて「もうおしまい？」と片付けられてしまった。

あと、これは当たり前なのだがフランスパンのスライスがついていた。そして食後にデミタスコヒーをいただいた。それで10・9€だった。なんだか無駄遣いをしてしまったような気がした。前日のパッサウのホテルでの食事、それから今日の昼間に目撃したケーキの美味しいというカフェでの光景、そしてこの時のレストランでの体験によって、私は改めてはっきりと「やっぱり美味しいものは日本で食べよう」と決心したのであった。



ホテルの部屋の造りはモダンだが、エレベーターは超古典的なデザインであった。

5月6日（火）

本日は懸案のサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼の下見のためにサン・ジャン・ピエ・ド・ポーまで行ってくる予定である。

朝、朝食付きとは聞いていなかったが出発しようとしたら玄関わきのダイニングに美味しそうな朝食が用意されていたのでついいただいてしまったら16・1€請求されてしまった。でもとても美味しかった。パッサウの宿泊についていた朝食よりは明らかに上等だった。

バイヨンヌからサン・ジャン・ピエ・ド・ポーまでローカル列車があると聞いていたのだが駅にしてみると電車らしいものはなくて何故かバスであった。それでも予約で買ってあったチケットで乗れた。7:45発で到着は9:04であった。でもバスに乗るのも楽しいものと思った。ずいぶんスピードを出して走るんだなあと思ったが。

サン・ジャン・ピエ・ド・ポーの駅に着いた。電車の姿は見えないが線路はある。廃線にでもなったのだろうか？可愛い駅舎があり駅員さんはいるのだがトイレとか売店はない。聞いてみたらトイレは五百メートルほど離れた商店街のほうにあるというので、行ってみたらたしかに公衆トイレがあったのでそこを使った。古くてあまり快適ではなかった。



駅前の案内板を見る人たち



家々のデザインが可愛い



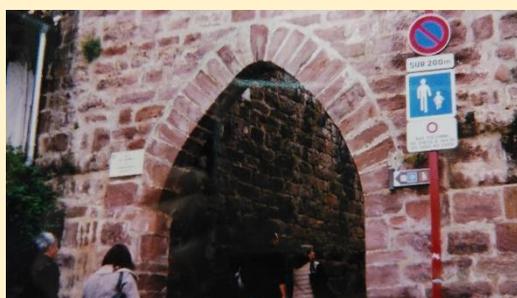
街並みも路上駐車も可愛い

とても可愛い街だ。家々は赤い屋根に白い壁、窓枠は赤・・・どの家も皆同じようである。街路樹の並木に縁どられた小さな通り、路上駐車もオシャレに見える。リュックを背負った人たちがぞろぞろ歩いて行く。サンティアゴ・デ・コンポステーラまで行く巡礼の人たちとこのあたりだけを観光する人たちとが混じっているようだ。

巡礼事務所を確認する。写真を撮っておこうと思ったら、残念、もうフィルムがなくなっていた。



巡礼に出発する人たち



「サンジャックの門」と呼ばれる門

この後街で買い物をした。タオルや布物専門のブティックがあったので息子に青いバスタオル、ハンゲル教室のみんなにキッチンクロスを買う。それからちょっと体験を、と思ってファーマシーに入り、湿布薬を買ってみる。なかなか話が通じなくて困った。「貼る薬」って言ったんだけどな。でもようやくわかってくれて奥から出して持ってきてくれた。あま

り日本でのように頻繁に使われてはいないらしい。

そういえば前年ブータンで日本語の上手なガイドさんにブータンにも湿布薬というものがあるかどうか尋ねてみたが、それがどういうものをどう説明してもわかってもらえなかった。ブータンでは老人が筋肉痛や腰痛をおこしても我慢するしかないらしい。

昼食は、バイヨンヌのホテルの朝食で出たパンにチーズやハムを挟んだものをこっそりテイクアウトしてきていたのでそれをサン・ジャン・ピエ・ド・ポーの駅舎の中で帰りのバスを待ちながら食べた。バスは13:31発で、バイヨンヌに着くのは14:49。そしてバイヨンヌからTGVでボルドーまで戻るのである。ボルドーからパリまでは空路である。TGVでバイヨンヌ発が15:25でボルドー着が17:09。

ボルドー駅までは予定通りに着いたものの空港に行くバスの乗り場がわからなくてうろうろする。五、六人の人々に尋ねまくってようやく乗り場がわかる。しかし待てども待てどもバスが来ない。しびれをきらしてタクシーに乗る。運転手さんは黒人の方であった。40€で行くという。しかし渋滞のために60€かかってようやく空港に到着。降りる時運転手さんにチップをあげるのを忘れてがっかりさせてしまったようであった。

ボルドーのメリニャック空港で四日ぶりに日本人の姿を見た。何だか不思議な気分になったがホッとした部分もある。でも反面、「ああ、フランスが離れていく・・・」というような残念な感じもあった。

空港でオレンジジュース（200ml）を買ったら3・1€もした。高いなあ！

ボルドー・メリニャック発20:40→パリ・シャルルドゴール着22:00

パリ・シャルルドゴール発23:25→東京・羽田着（5月7日）18:20

パリからは日本人がいっぱいいてとても不思議な感じがした。そして同時にやはり名残惜しい感じがした。

帰宅したのは午後九時半ごろであった。夫と娘が寿司の出前を取って待っていてくれた。尤も彼らは先に食べ終わっていたが。息子はその夜から九州に旅行に出かけていた。退社後にその足で出かけたとのことであった。



バイヨンヌの町の散策中に行った缶詰

【完】